

第2部の大人たちに
聞きたいこと言いたいこと

・「助け合い。支え。伝える。」次世代に教えたいことは個人的にこの3つ。防災を意識しない防災意識！阪神淡路大震災を経験した人たちから、震災後の被災者との関わり(コミュニティー)について話を聞いてみたい。

・どのような社会、地域、コミュニティーを実現したいのか？

・自分も同じ被災者になった場合にどういった思い考えて被災地へ行ったのか。ボランティアを通して変わったこと考えなどあれば教えていただきたい。

・人生そのもの

戦争や震災の記憶を遺すとは無関係に年長者の経験を見聞きたい。ノーベル賞受賞者などの偉人ばかり伝記が書かれるのはおかしいと思う。きっと後の世代に役立つ教訓もいくらか潜んでいるはず。

・“アホ”と“大人”は両立しうるのか？

- ・地域の歴史　そこで何があったのか。
- ・感じていた限界。
- ・国、企業との連携のしかた。

- ・震災のときに実際に役に立ったこと
- ・持っていてよかったと思う心がまえ
- ・人生を変えるくらいの後悔
- ・今の若いもんは・・・のあとの否定はいら
ない
(昔とはこう変わったと思うという指摘は欲しいが)

- ・ボランティアは今日多く話題にあがっていた。小さい声を聞き出し、広げる存在→本当にできている？
- ・やはり自分の話や印象に残った人の話の方が伝えやすいのでは？
- ・本当に伝えられない人の話をのこすには？

- ・どういう活動を目指しているのか？
- ・若者との違いを感じるのか？それは何か？

- ・大人世代の若いときに、彼らが行った“武勇伝”は今の若い世代に引き継ぐとおもしろいと思う。

・被災後の生活で困ったこと、被災する前にこういうことをしておけばよかったと思うことは？

・どういう風になれば(私たちが)皆さんの思いを引き継げるのだろうか。

・被災経験をどんどん語っていただきたいし、自分もその内容を大切にしたい。

・若者に今、足りていないものは？

・若者に対して柔軟でオープンであっていただきたいです。

- ・マイナスな面だけではなくプラスの面を話す
- ・忘れる瞬間があるか？

- ・人を巻き込んで生きてください！！
- ・子どもに戻って人と接してみてください！
- ・向上心も忘れずに

- ・神戸は震災以降から様々な活動が生まれ続けてきたので、その関係性、人脈、活動を引き継いで行きたい。
- ・若い人たちが参加しやすいように。

・想い

・つながり続けることの大切さ、難しさ、少し学びました。もっと学びたい

・リアリティのある個別具体的な体験談→実際の体験の有無が我々と大人との1番大きな違いであるから。

・本当の意味での復興とは何か？→地震で大切な人を亡くされた方にとって、どういうことから復興を実感できるのか？立ち直れるのか？

・阪神淡路大震災の教訓のが、東日本大震災で行かされなかったんですか？

・防災のために最低限必要なとしきとモノの大事さ。

・震災前と震災後の変化

・多くの人に震災のことを話してほしい。

・震災の記憶は私たちにはどうあがいても手に入れることはできない。「教訓」という形に変換されていない。教訓＝楽しくない生の声、肉声をどんな形で継いでいきたいと思いますか。継がれていきたいと思いますか。

- ・今の若者は何をすべきで、何をして欲しいのか？
 - ・経験や想い、体験など
 - ・圧迫しないでほしい
-
- ・自分の「もの」にするとはどういうことか？

- ・マインド(技術ではなく)
- ・スタンス(関わるかくご)
- ・生き様

- ・それぞれが経験した震災、そこで感じたこと。それを知らない人たちにどう伝えるか、どう伝えて(話して)きたか。
- ・震災があつて変わったこと。被災者と言われることで感じたこと。
- ・今の若者が次の災害までにどう過ごしていくか(いけばいいのか)。
- ・言葉だけでなく、生き方、生き様

その他の意見、感想、大切と感じたこと

- ・「助け合い」「思いやり」「当事者意識」→「自分事」としてとらえること。
- ・人とのつながり、出会い。
- ・身近な人間に対して共有し続けること。
- ・相手の気持ちを考えること。多様な意見に耳を傾けること。
- ・東北のボランティアに行きたくても忙しくて行けなかったりする。大学生の立場から考えると、市の職員のような「ボランティア休暇」という制度があれば良いなと思います。
- ・今回の討論で被災地の友だちを作ればTVが取り上げられていない範囲のことが知ることができたり、メディアの情報の吸収力が変わってくるということを知りました。

- ・掬っても掬ってもこぼれ落ちてしまう人、想いを忘れない。
- ・隣の人と大事にしあう。
- ・自分に近ければ近いほど難しい。けど、難しいことが大切。
- ・人との信頼関係を築いていく中で、人の良いところを認められる人になりたい。
- ・ボランティアが来て当たり前ではなく落ち着いた後に恩返しするという所
- ・ボランティアは人との出会いの入口
- ・人とのつながり

・子ども会などの地域の関係をのこしていく

・助け合える社会

助け合えた記憶は次へ生かして、助け合えなかったのなら助け合える社会への道すじをつくりたい。

・新た(フレッシュ)な受け継ぎ

悲しい記憶をよりポジティブな形での語りつきへ

・一人一人を大切にみるということ

・始める

・ボランティア＝すごいことではない。→身近なことだと感じる。自発的なこと(家事手伝い)→自分の趣味であつたら(サッカーの応援)

・大人＝子ども 子ども＝大人

・いろいろな経験をし、いろいろな対応力がつけられる大人になりたい。